

豊川小だより

3月号

豊川小ホームページ

<https://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu/toyokawa/index.htm>

令和6年3月1日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

ホームページ

QRコード



桜から思うこと

校長 中村 順子

四季折々に咲き誇る様々な花に恵まれていることが、豊川小の自慢の一つです。2月の中旬からウメが見頃になり、今年の暖冬傾向も相まって、早くも菜の花に加え、1年生が植木鉢で大切に育てているチューリップも背丈を伸ばし始めています。春がすぐそこまで来ていることを感じる毎日です。

多くの花木の中でも特別なのは、桜です。北区のシンボルでもある桜は、本校の校章にもデザインされている、豊川小学校にとって大切な花木です。子供たちに「豊川小を表す『もの』は何か」と問いかけたところ、間髪を入れず「さくら！」と答えた子が何人もいて、うれしくなりました。

豊川小の校庭には立派な桜の木があり、毎年卒業や入学の頃には、記念写真のバックにしている光景を見かけます。その桜の木ですが、よく見ると既に小さなつぼみがたくさん付いています。気象庁の桜の開花予想を調べたところ、2月は下旬こそ寒い日が続きましたが、中旬に暖かい日が多かったこともあり、開花は3月20日頃、満開が26日頃だということです。この予報が当たれば、6年生の卒業式は、満開の桜がお祝いしてくれることになりそうです。今から楽しみです。

＊

世の中には多くの花があるにもかかわらず、桜の花が私たちの心を打つのはなぜでしょうか。その理由を2つ考えました。

この時期話題になるのは、上記にある桜の開花宣言です。たった数輪の花が咲き始めることを、今か今かと固唾を呑んで待ち、その小さな花の誕生を、誰もが笑顔で喜ぶ。桜にはそのような魅力があります。

そしてもう一つ。桜は一輪だけでももちろん美しいのですが、よく見ると大概いくつか束になって枝に付いており、それがまとまって咲くことで心打つ美しさになります。またさらに枝いっぱい、そして木全体に花が広がっていることで、私たちに感動を与えてくれるのだと思います。

＊

6年前に、一輪の桜の花のようにかわいらしく入学してきた今の6年生が、素晴らしい仲間とともに多くの花の集まりとなりました。そして6年間で一人一人が見事な桜の大木のごとく成長し、これから新しいステージに登っていくことを、本当にうれしく思います。また、1年生から5年生までの在校生が、豊川小の幹となっていた6年生を指標としながら歩みをすすめ、一回り大きくなって進級していくこと、これもまたうれしいことです。

その陰には、日頃よりお子さんに優しく寄り添い、支えてくださった保護者の皆様、そして地域の皆様の多くのお力添えがあったことは言うまでもありません。1年間のご支援をありがとうございました。

開花する桜と共に進学、進級していく豊川小学校の子供たちを、今後とも温かく見守ってくださいますよう、お願い申し上げます。

